

# 「持続可能な開発目標：SDGs と観光から考える持続可能なまち札幌」 サステナブルローカルハイスクール in 札幌 を開講しました！

三井住友信託銀行では2012年より、環境専門のインターネット放送局グリーンTV ジャパン、SDGs TV を運営する株式会社 TREE と協働し、次世代を担う子供たちに向けたESD（持続可能な開発のための教育）プロジェクトに取り組んでいます。

第12回目となるESDプロジェクトは、札幌市内の高校生を対象に「持続可能な開発目標：SDGs と観光から考える持続可能なまち札幌」をテーマにしたサステナブルローカルハイスクールを開講しました。

## SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されており、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をスローガンに、発展途上国から先進国まで一体となって積極的な取り組みを進めています。



## SDGsの視点から札幌の観光について考える

2019年3月9日（土）、札幌市民交流プラザにて、札幌と近郊に住む中1～高3の生徒22人を対象にしたESDプロジェクト「サステナブルローカルハイスクール」を開講しました。これは、SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」を起点として、持続可能な観光のためのSDGsアクション集「いいね！SDGsアクション」を、ワークショップ形式で考えてもらう試みです。

当日は、JICA 北海道の野吾様、札幌市環境局の佐竹様がファシリテーターとなり、年間1,300万人、海外から200万人の観光客が訪れる国際観光都市・札幌の街の課題について学んだあと、札幌の街や人にやさしい観光とは何か、その普及啓発には何が必要か等について問題提起しました。

ワークショップでは、6つの班に分かれて「観光客が共に参加できる持続可能な観光」をテーマに、観光客にしてもらいたいアクションをSDGsと紐付けて考えました。生徒からは「観光客も日本のゴミの分別を体験する」、「公共交通機関（電車・バス）や徒歩、自転車を利用する」、「文化交流会に参加し相互理解を深める」、「アイヌ民族について知る」、「日本の交通ルールを知る」、「ホテルでは使わない電気を消す」など、観光客を“ゲスト”として迎え入れる立場から考えたアイデアが多数出ました。



生徒たちが考えたアイデアは、観光客の普及啓発に繋がるSDGsアクション集「いいね！SDGsアクション」という冊子にまとめ、4月以降札幌市内の観光関連施設などに設置される予定です。

このESDプロジェクトを通じて、次世代を担う子供たちがSDGsを身近に感じ、持続可能な社会とは何かについて考え、具体的な取り組みをはじめてもらおうきっかけになれば幸いです。

三井住友信託銀行では今後も、SDGsの推進、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進に努めてまいります。

